

夜桜

村中 秀雄

絵／石阪 春生

桜が

満開の

坂の

上から

ゆっくりゆっくりおりていく

ヘッド・ライトを消したりつけたたり

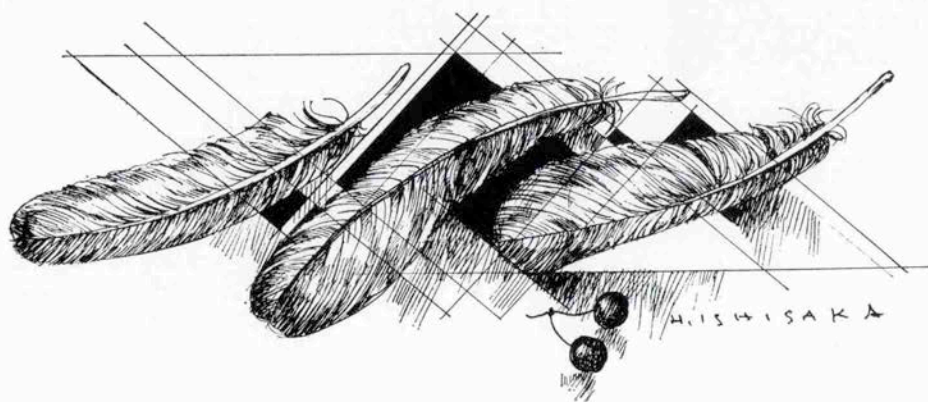
ああ

恋人の目を覚まさないように

しずかにしずかに

花の中を

おりていく



随想二題

やわらかな心

黒川百々代

△市民の学校△



このたびの私の第一作品集『遊ばか』が一応形を成して、ほっと一息ついた去年の暮れ、私を驚かせるニュースが新聞に載った。

大三匹が小学校校庭で遊具の鉄棒に宙吊りにされて死んでいた、というニュースである。しかも私たちは生きてゐるあいだに宙吊りにされたらしい、とコメントがついている。

その後、犯人がつかまったという話はまだ聞かない。

でも、私がそのとき感じたのは、犯人がよくもまあ宙吊りにされてもがく犬を眺めるという「拷問」に耐えられたなあということであつた。

そう言えばそれまでもにも鶏や兎が宙吊り犬とよく似た、なぶり殺しめいた方法で殺されたという話があつたことも思いだした。

また、この話と反対に犬が人間をひどく咬んだ、或はその結果、

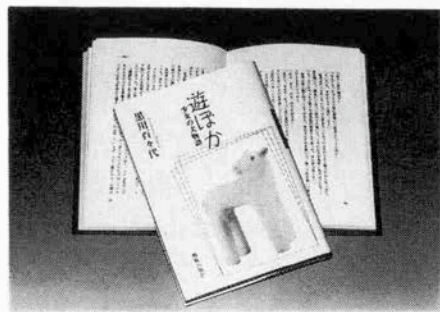
人間が死んでしまったというような話があつたのも思いだした。どうしてこんな事が起こるのだろうか。

私の幼い頃、こんなふうに自分より体力で劣っている生きものだけを対象にした残忍なうさ晴らしの話は聞いたことがない。その頃の人間たちはそんなことにはとても耐えきれないやわらかな心を持つていた、と考えるしかない。

そう思うには理由がある。

その頃、子供たちはそんな頼りなげな生きものと一緒に触れて暮らす機会がいっぱいあつた。

私自身、八歳の夏、生まれたばかりの仔犬を掌に乗せて、身震いするほどのおのきとおそれを感じた記憶は五十余年たった今でもあざやかである。毎日の遊び友達もバツタを捕らえ、トンボをいじく



りまわし、ひよこを触り、仔猫を、仔兎を膝に乗せて撫で、ときには叩いたりして日々を過ごしているのがあたりまえの日常であつた。

子供たちが外遊びのたびにその辺をうろついている飼ひ犬とも野良犬ともつかぬ犬どもと、よかれ、悪しかれ交渉を持つのはごくしぜんの成り行きである。その結果、犬に関する知識は子供たちの頭におのずと入つていった。

どんな表情のときの犬は危険か、そんなときはどうしたらよいのか、どんな顔つきか、ときには、あるいはどんなしぐさのときは甘えて遊んでくれと言っているのか、誰でも知つていた。子供たちの意識のなかではボチもシロも遊び仲間の一人であつた。だから、そんな仲間との間に咬傷事故など起こりようがなかったし、ましてや彼らを捕らえてなぶり殺そうなどというアイディアは出てくるはずがなかった。

あえて言えば、子供たちにとって、身近に息づいているさまざまな虫も鳥も四つ足も、

「おまえと一緒に生きようなあ」と語りかける相手であつた。

誰もが思春期を迎えるまでに、そんな一時期をすごして大人になつた。

やわらかな心はそこで醸成されたと思う。

さて、今はどうであらうか。

「神戸っ子」の心意気

楠田 育宏

〔ナニゴコロ電機〕
株式会社社長



時は九三年夏。ガラガラ太陽、油蟬の声がいらいら立ちに拍車をかける。所は須磨のとある古ぼけた民家、今にも朽ち果てそうな様相を呈している。

「ハイ本番」。カチンコの音、一瞬汗が止まる。「カット」「カット」の声で物音が再び甦る。まさに映画「夏の庭」の撮影現場である。主演の三国連太郎さんと三人の少年の衣服は流れる汗で変色していた。それを囲むスタッフ五十余名、まるで無表情で汗を拭おうともしない。

「夏の庭」のスタッフから突然の電話をもらったのは一行が神戸で撮影が開始されてまだ間のない七月半ばだったと思う。

台風シーンの特撮で、カメラのレンズに水の飛沫がかかってよい絵がとれない、という相談である。

モーターを使った回転板で水を吹き飛ばす装置をレンズの前に取付けるという方法である。正直言って迷った、自信がない。映画は全神戸ロケ、単なる娯楽作品でも

ない。ストーリーとスタッフの熱意に感動した。

よし少しでも協力して神戸っ子の心意気を見てもらうんだ。それから一週間最初のデモ機のアウトラインが出来た。須磨の撮影監督のもとへ走った。モーターの回転音が気になる。少し振動が大きい。致命的な改良点が出た。台風シーンのカット撮りまで2週間しかない。焦った。設計を根本的に修正した。各部品の一つ一つの精度を上げた。回転の安定のための機構も取り入れた。深夜迄スタッフと打合せが続いた。八月十日にはほぼ完成。最終チェックとカメラ本体との取付に又時間を要した。花火大会のカットも撮り終え、台風シーンのカットである。私の心は躍った。スタッフから成功の連絡であ

る。鳥肌の立つ感激を味わった。コスモスの満開に咲き乱れる中で三人の少年の笑顔と老人の満ちたる髭。撮影もいよいよクラシックアップだ。いつしか蟬の声も遠くなり、代りに須磨の浜の潮騒が秋の足音を運んで来る様な気がした。

十二月六日、特別試写会に招かれた。台風シーンを食い入る様に観た。込み上げるものを感じ自分が自分でない様な気がしている。と、更にエンディングに「神戸のみなさまご協力有難度うございました」の字幕を見るに至っては、あの暑い須磨の「夏の庭」も今では夢の中の絵画とさえ思えるのである。

昭和11年8月、神戸生まれ。瀬区在住。
六甲学院、大阪工大電気科卒。
趣味：ボウリング、手作り工芸工作





□れんさいエッセイ

《午後の出会い》⑤

六甲時代(一) — 藍

丸本 明子〈詩人〉

絵／中西 勝〈画家〉

内なる世界を繙く。

忘却の彼方へ消滅してしまわない前に、描いておこうと思う。それは、鮮烈な色彩を帯びはじめる。

阪急六甲駅前、阪急電鉄の経営する店舗が、バス・ターミナルを囲むように立ち並ぶ。煙草屋、うどん屋、花屋、喫茶店。

「阪急喫茶」を、阪急電鉄から借りて、経営する。その時で、家賃が一萬余だった。今、考えると、高家賃だったと思う。

花屋の奥さんは美人だった。美しい花々が、喫茶店の前にあり、美しい色どりが駅前を明るくしていた。

戦後五年目、世の中は、暗さから脱却しようとする兆が、復興へと胎動しはじめ、活発化しようとしていた。それは蜘蛛の子を散らすように、四方八方、無差別な行き当りばったりの様相のまま歩みはじめていた。

戦死した人々、焦土とともに焼け死んだ人々、餓死した人々、餓死寸前の骨と皮だけの腹だけが異様に脹れた人々がどうにか生き残った。阪急六甲駅前の店舗はベニヤ板張りのバラックだった。そのバラックの屋根裏の三畳ほどの空間が住居だった。屋根裏だから、立とうとすると、梁で頭を打つ、梯子で屋根裏の部屋へ入ると這いながら行動をする。赤ん坊だった息子には、部屋全体がベビー・サークルのような空間だったので危険を感じなかった。看板の裏の小窓から外の風景が見えた。

店の内装は薄緑のペンキを塗って明るく、広く感じるようにした。庭には丸太を組合せたテーブルと折り畳みの椅子を並べた。その椅子も、店内

の椅子も健在である。

二紀会創立同人の、田村孝之介先生のアトリエが六甲の高羽町にあった。先生のアトリエヘデッサンの勉強に行かれる若い画家の方々と一緒に行ったことがある。広々とした庭のある素敵なアトリエだった。

国画会の山本万司先生のアトリエも六甲の八幡町にあった。訪問すると、やさしい笑顔の先生と奥様が出迎えてくださった。

松岡寛一先生がモデルと一緒に、屢々、店へ来られた。先生が坐られる席は定っていた。店内の左側の隅の陽の光が斜に入る場所だった。その場所が店の特徴を施しているデザインがあった。手製の小豆色の座蒲団を長椅子の上に敷いていた。先生とモデルが坐ると、異国のcoffee shopのような雰囲気醸す。不思議なMysteriousな映像の一齣が思い出される。

長身の池永孟氏は六甲駅からバスで熊内の自宅へ行き帰りの時に店に立ち寄られた。

池永氏は南蛮美術品のcollectionをされていたのが、膨大な数になり、自宅の横に、南蛮美術館を建てられた。後に、市に南蛮美術館は寄贈されたと聞く。

池永家は代々、兵庫区門口町に居住しておられた。私達の先祖も、池永家の向いで、紺屋の商いをしていらした。戦火に焼けてしまつて、現在は昔日の面影はない。

藍玉を仕込んだ、藍壺が土間に十個ほど埋められていたらしい。藍壺は直径一米ほどあり、蠟（ろう）象（ぞう）りした布を藍壺につけ込む。壺に渡してある棒を何度も動かして回して、布を藍色に染める。染

まった布は、しんじばりをして干場に干す。藍色の布の干されている様子を想像する。藍色に染まった布は、その昔、有馬街道を徒歩で、三木、三田方面へ商いに行つたらしい。農家の人々の労働着、蒲団のがわ、暖簾、祝儀にと、木綿の藍染の布は重宝されていたらしい。

先日、詩誌「柵」の同人の、蘭繁之氏から、詩集「藍抒情」を贈っていただいた。

藍の魂が内包される、鋭意な詩魂の形象の結実、は静謐な感性と、藍に込められる心象の深さに、先祖の藍染の仕事のことを重ねていた。詩集の中の「藍師」「藍美し」「藍に合掌」「藍草」「藍がめ」「藍絞り」「手仕事」「いのちを染める」「藍の人」「藍色の空」「藍布」、そして「成仏」と、結構する深い詩魂の世界を共有させていただいた。

「成仏」の詩を書かせていただく。

重ねれば重ねるほど

藍は強くなり

濃くなって

空に色の発生がなされる

さびしい青白い

都会の雨は

老いて行く点影で

青春ではない

藍が濃紺になるまで

染めあげて

こそ

人は成仏するのではないだろうか

六甲駅前の、バス・ターミナルを囲む店舗の、昔日の美しい様子は脳裡から消えない。



市民ギャラリーで開かれた展覧会場



小磯良平「波の休息」(1927年)東京美術学校卒業制作 モデルは竹中郁

●こうべ芸文20周年記念事業

竹中郁と 神戸モダニズム展 開く

こうべ芸文20周年記念事業に「竹中郁と神戸モダニズム展」が3月10日(日)～4月11日(月)まで、神戸市役所市民ギャラリーで開催された。

会場には赤と黒の荒い縞柄のラグビー服を着た竹中郁を描いた小磯良平画伯の東京美術学校卒業制作「波の休息」(1927年)は、神戸モダニズムの代表的な油絵がかかっている。

そして、竹中郁のこのシネボエムも…。

ラグビー アルチュール・オネが作曲。

1、寄せてくる波と泡とその美しい反射。

2、帽子の海。

3、ズボン・開始だ。靴の裏には鉾がある。

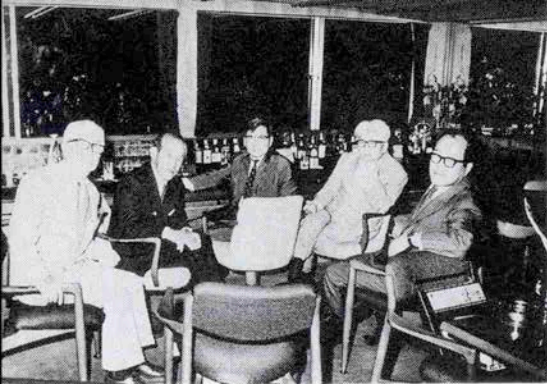
4、水と空気に溶けてゆく球。楕円形よ。

石鹸の悲しみよ。

5、(あつ、どこへ行きやがった)

6、脚。ストッキングに包まれた脚が工場を夢みてゐる。

7、仰ぎみる煙突が揃って石炭を焚いてゐる。雄大な朝



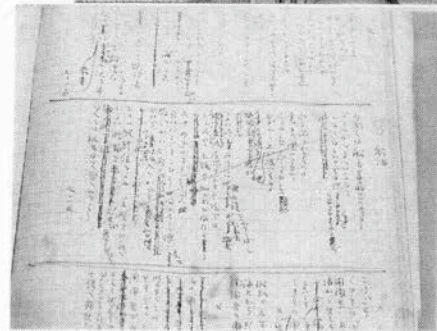
上は北野クラブで本誌撮影（昭和30年代）
左より竹中部、井上靖、陳舜臣、司馬遼太郎、
足立善一／竹中部の詩集（中上・中下）



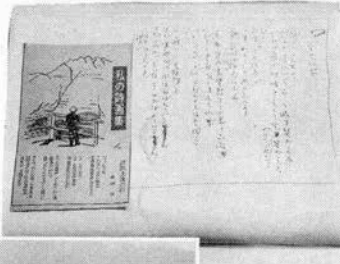
ダンディな竹中部（年令不明）

- 8、をかまへてゐる。
俯向いてゐる青年。考えてゐる青年。額に汗を浮かべてゐる青年。叫んでいる青年。青年。青年はあらゆる情熱の雨の中にある。喜ぶ青年。日の当たっている青年。
- 9、美しい青年の歯。
心臓が動力する。心臓の午後三時。心臓は工場にっらなっている。飛んでゐるピストン。
- 10、昇る圧力形。
疲労する労働者。鼻孔運動。
- 11、タツクル。横から大きな手だ。五本の指の間から苦のやうな人間風景。
- 12、人間を人間にまで呼び戻すのは旗なのです。旗の振幅（忘れてゐた世界が再び眼前に現れる）三角なりの旗。悪の旗。
- 13、工場の汽笛。白い蒸気。白い蒸気の噴出。花となる。見えぬ脚に踏みつけられて起きつづける草の感情。中に起きられない草。風。日に遠い風の吹く地面。
- 14、ドリブル六秒。ころがる球。雨となるベルトの廻転。汗をふいて溜息する青年。（球は海が見たいのです）伸びる青年。松の尖った枝々。
- 15、密集。機械の胎内。がっちり喰ひ合つてゆく歯車。
- 16、ぐったりする青年。機械の中へ食はれてゆく青年。
- 17、深い深い睡眠に落ちこむやうに。
何を蹴つてゐるのだらう。
- 18、胴から下ばかりの青年。
（ああ僕は自分の首を蹴つてゐる。）
- 19、旗、旗、旗。
- 20、わつと放たれた労働者の流れが、工場の門から市中をさして。夕闇のやうに黒い服で。
- 21、飛んでゆく新聞紙。空気に海月と浮いて……。
- 22、踏切がしまる。近東行急行列車が通りすぎる。全く

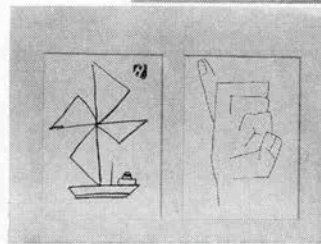
竹中郁全集ほか



竹中郁の詩のてっさん(下)



下は得意なカット



28、夜。落ちてゐる首、(どこかで見た青年だ。)
29、太鼓の擦り打ち、鈍く鈍く。
雨だ、雨。

神戸の詩人さん竹中郁。

「竹中郁は、明治三十七年(一九〇四)四月一日(戸籍は三月三十日)、神戸市兵庫区永沢町四丁目七十番地に石阪芳松・しうの三男として生まれ、本名育三郎といった。石阪家は澱粉製造業を営み、のちに海外にも輸出した。一歳で母の妹にの嫁ぎ先の竹中亀太郎の養子となった。竹中家は傘・提灯を商う兵庫の旧家であったが、亀太郎は当時勃興した紡績企業にクレイという用品を納める事業に成功し、家計はすこぶる裕福であり、かつ洋風を好んだ。そうした家庭に育ち、早くから良質の洋品を身につけ、兵庫幼稚園、入江小学校、兵庫高等小学校をへて十二歳で兵庫県立第二神戸中学校(現兵庫高校)に進んだ。生いたちからしてハイカラであった。

中学で終生の盟友小磯良平を知り、その影響でヨーロッパの近代絵画に接し画家を志す。だが、養父の強い反

対に遭って文学に転じ、十九歳で北原白秋、山田耕作主宰の『詩と音楽』の新進十一人集に推薦され詩へと向かう。その年、中学を卒業して関西学院文学部英文科にはいり、その自由で欧米文化を早くとり入れた学風のなかで文学を育て、ことにジャン・コクトーを知ってフランスにあこがれる。最初に福原清とふたりで出した同人詩誌も『羅針』と名づけ、自宅を発行所にして海港詩人倶楽部と称した。これもいかにも神戸臭い。そして在学中に第一詩集『黄蜂と花粉』を刊行し、卒業してしばらく東京で北原白秋の『近代風景』の編集を手伝ったのち、昭和三年二十四歳のときに小磯良平とともにフランスに留学して二年過ごす。滞欧中の作品を文芸詩『詩と詩論』に連続発表し、帰国して詩集『象牙海岸』をまとめ、詩壇に知的詩風で地歩を占める。

この間、小学三年のときに当時の須磨村一の谷に近い別荘に住み、中学四年のとき養父は須磨区行幸町二丁目のテニスコートのある家を新築してくれ、フランスから帰るとそのテニスコートに家を建て、結婚して戦災までここに住んだ。つまり、神戸の最も古い町兵庫に生れて幼時を過ごし、ついで新しい住宅地として開けた須磨に

詩の神戸モダニズム



竹中郁展に見入る女子学生、下は愛用パイプ



帽子と書斎の机、椅子と油絵3点



自画像、「ずりおちる眼鏡」(1968年)

81へ）
展覧会は「竹中郁とこどもの詩展」が4月13日(水)～5月8日(日)神戸市役所1号館2階市民ギャラリーにおいて開催され、「詩と愛 竹中郁展」記念講演会に続いて、4月16日(土)14時～16時、せいでんラビングホールにおいて、児童文学者の灰谷健次郎氏が記念講演を行う。(要入場整理券) 詳しくは、文化振興課(078-331-81

の発信地となるようにと願う。
展覧会は「竹中郁とこどもの詩展」が4月13日(水)～5月8日(日)神戸市役所1号館2階市民ギャラリーにおいて開催され、「詩と愛 竹中郁展」記念講演会に続いて、4月16日(土)14時～16時、せいでんラビングホールにおいて、児童文学者の灰谷健次郎氏が記念講演を行う。(要入場整理券) 詳しくは、文化振興課(078-331-81

の発信地となるようにと願う。
展覧会は「竹中郁とこどもの詩展」が4月13日(水)～5月8日(日)神戸市役所1号館2階市民ギャラリーにおいて開催され、「詩と愛 竹中郁展」記念講演会に続いて、4月16日(土)14時～16時、せいでんラビングホールにおいて、児童文学者の灰谷健次郎氏が記念講演を行う。(要入場整理券) 詳しくは、文化振興課(078-331-81

の発信地となるようにと願う。
展覧会は「竹中郁とこどもの詩展」が4月13日(水)～5月8日(日)神戸市役所1号館2階市民ギャラリーにおいて開催され、「詩と愛 竹中郁展」記念講演会に続いて、4月16日(土)14時～16時、せいでんラビングホールにおいて、児童文学者の灰谷健次郎氏が記念講演を行う。(要入場整理券) 詳しくは、文化振興課(078-331-81

新富山市庁舎に見る

新しくて古い感覚

嶋田 勝次 △神戸大学工学部建築学教授▽

久し振りに富山市を訪ねたが、数年前だったかの時は、建築業協会賞の審査のために出掛けたのにその時にはあまり時間もなかったが、今回は二泊も出来た上、トロ

ツコ電車で黒部の上流まで出掛けて、紅葉には若干早かったが、のんびりまでさせていたのだから、云うこともない。

それも全国建築審査会長会議で何十人かの一人として長年審査会の委員をしていたとかで表彰してくれたのだから、嬉しい日となったのである。

折角なので最近完成した建築を見学する楽しみまで勝手に加えることというおまけまでついたのだで、新しく九二年五月に完成したという富山市庁舎をまずのぞくことにした。

JR富山駅から南へ下った直ぐのところは位置しているが、この道路も新しく設けられたようだがもうしっとりとおちついたふんきが定着している。しかし何か変っていると感じたのはどうして分るうかと思いがちながら歩いて分ったのは、電柱がないことであった。市の中心部がほとんどそんな

のか新しい道路にこころみられたのだらうか不明ながら、都市の景観をよくして行くのに、電柱電線の有無も大きいと感じた。

ところでこの新しい建築は確かに建築の現在の流行を沢山盛り込んでいる。

キャンティレバーのとび出したガラス壁面、見せかけのような細いパイプのキングポストの大きな妻のある屋根が目立つが、この大屋根が室内にまでそのまま入り込んで天井を構成して、吹抜の8階建のアトリウム空間を作り出している。この大空間にはシースルーエレベーターが変化のある味を見せてくれる。それとは別のエレベーターで展望回廊まであがれば、富山市街が一望出来るのみならず、北陸のシンボルでもある立山連山まで望ませてくれるのがよい。ずっと以前に中学生になっていた息子と二人で登った頃まで思い出させてくれた。

この市庁舎は東と西の二棟を「ハ」の字型に配置して、その間が三角形の大屋根でおおわれているので、市庁舎の外部にまで開かれた空間になっているといえるの

だらうか。

それにしても市庁舎というひとつの建物でありながら、そしてアトリウムの大空間で一体化した建築と考えながら、ひとつの建築への統一感がないのはどうしてであらうか。それは部分や色彩や材料が異なったものを利用して、部分部分が語り過ぎていくからではないかと思ってしまうからなのである。これはポストモダンズムの次の時代の感覚とは思えない。それよりもモダンズムの強調されたあとさがりの意識に見えて来るのが気になるのである。日本で一、二を争う日本設計という大設計事務所であるからよけいにそう思うのである。

これと比較するのはおかしいのだが、日建設計の実施した神戸市庁舎の端正な真四角なプランの高層建築を思う時、さりげない形の中に秘められた意欲を想像してしまふのである。もっと言えば、飽食の時代故に一層そんなことまで思ってしまうのである。



’92年に完成した新富山市庁舎

丹念に焼き上げた伝統的洋菓子

“スイートカップル”

あたたかい祝福の言葉のひとつひとつに
心から感謝したい……



お二人の心をこの銘菓に託して

¥ 1,500



株式
会社

北欧の銘菓
2-ハイム・コンフェクト

本社 〒651-21 神戸市西区北別府2-1-2
TEL.(078)974-9756 FAX.(078)974-9758
大阪営業所 〒558 大阪市住吉区苅田町7丁目12-19
TEL.(06)697-9435 FAX.(06)697-4188

東京・名古屋・大阪・神戸



Before



After

春 一番輝く 私に

スーパー美容術で自信のもてるスタイルに

カラダの気になるための部分。運動やダイエットで頑張っても、なかなか細くならない。そんな悩みをかかえるアナタには、絶対おススメの脂肪吸引。短時間で、しかも安全・確実に、気になる部分をスリムにできます。

◎脂肪吸引の費用

・頬28万円・上腕28万円・お腹38～58万円・
お尻38万円・太もも38～48万円(太もも全
体68万円)・ふくらはぎ38万円

魅力的なバストに

胸が小さくて悩んでいる人には、豊胸術がお勧め。生理食塩水を使用する方法と、自分の余分な脂肪を吸引してバストに注入する方法があり、どちらの方法も自然な感触の張りのあるバストにすることができます。

◎費用 豊胸術60万円

※表示金額以外、費用は一切かかりません。

★カウンセリング無料

PRESENT

美容整形に関する最新の情報を満載した本「スーパー美容術のすべて一美しさ自由自在」(品川美容外科監修)を抽選でプレゼント。ご希望の方はハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を書いて下記の宛先までお送り下さい。

〒108 東京都港区港南2-6-3 新富ビル3F
ビューティークラブ「スーパー美容術のすべて」プレゼント 神戸っ子係まで

24時間無料テブ案内
0120-006477
品川美容外科形成外科
078(331)7183(女性)
078(331)4102(男性)

診療時間/AM10:00～PM7:00(年中無休)
※各種クレジットカード・ローン可

大阪 06(312)1420(女性) 京都 075(344)3386(女性)



神戸市中央区三宮町
1-3-3 小林ビル6F

SPRING FASHION REPORT

①

■わたしのファッションレポート 気軽な春のショッピン

諸泉頼子

〈専正池坊副家元〉

★南フランス・プロヴァンス地方のプリント生地が美しい「レゾリヴァード六甲アイランド店」

南仏プロヴァンス地方の降り注ぐ太陽の光の下、ラベンダーの紫、オリーブの緑、地中海の青、ミモザの黄といった自然の色をそのまま活かし、今もなおこのプロヴァンスの地で生産を続けているのがレゾリヴァードです。

そのプロヴァンスサルプリントを使ったウェア、バッグ、小物などを神戸六甲アイランドで求めることが出来ます。又、部屋のインテリアに合わせて、カーテン、寝装品のオーダーメイドもしています。リラックスした気分ではなやかに楽しめるのがこの洋服の特徴です。



南仏風の雑貨に囲まれて

■神戸市東灘区向洋町中6-9
神戸ファッションマーク1F
☎(078) 857-8121
10時~19時 月曜休

★着まわしの出来るシッくな服ジバンシイ

「大丸芦屋店2Fジバンシイ・ヌーベルブティック」
ジバンシイとは母娘そろってのおつきあいです。仕事を始めるようになってから、洋服はほとんどここで買い求めています。

生地、仕立ての良さ、そしてカットイングの美しさがポイント。シックで上品なデザインは、5、6年は

大丈夫。少しもアウトオブファッションになりません。又、縫いしろが充分に残してあるので体型が変わってもリフォームできるのです。

仕事柄、黒、茶、紺、グレーなどのモノトーンの色シンプルなデザインを選びますが、その時その時の気分やTPOに合わせてアクセサリー、小物を変え幾とおりにも着て重宝しています。



上品な装いは、やはりジバンシイ

■芦屋市船戸町1丁目31
大丸神戸店2F
☎(0797) 3412111
10時~18時(日・祝は18時半)
火曜休

★金製品とダイヤの扱いでは輸入業界トップの店

「オリエンタルゴールド芦屋店」

イタリアの「ウノ・ア・エレ」「ヴェンドラファ」等を中心にしたヨーロッパアンジュエリーを主に取り扱い、ゴールドジュエリーのアイテムの豊富さ、品質の良さがポイントです。

またダイヤジュエリーは、日本で唯一、原石から研磨まで一貫して行なっている、オリエンタルダイヤモ



「店長の宮西さん(左)とは長いおつき合いです」と筆者(右)。
ジバンシィ・ヌーベルブティックにて。



ショーウィンドウ前で

ンド社の「星の砂」を取り扱っています。お買物ついでに、ピアスやプレゼントなどを求めるのに便利です。商品のお値段が控えなのもうれしい。

■芦屋市船戸町4-1-108
ラポルテ本館1F
☎(0797) 231-5622
10時~20時 第2第3木曜休

★セミオーダーで自分だけのバッグを作る贅沢

「ブルーチップス」

神戸ハーバーランド、オーガスタプラザ2Fにあります。NHK文化センターでの講習の帰り、必ず立ちどまりたくなるのがこのお店です。



桂さん(左)と久本さん(右)

★フイレンツェ・バリ直接仕入の品が楽しい
「イール・ド・フランス」
ホテルオークラ神戸で、月一回フラワーアレンジメントを教えている帰りに、立ち寄るところがこの店。小さな店内にはオーナーが、直接バリとフイレンツェで買付けて来たインテリア小物や、アクセサリーの数々が並び、ウインドーショッピングするだけでも楽しい。アクセサリーはフランスならではのデザインが揃いアンティークな仕上げものや、遊び心いっぱいのものが手頃なお値段で沢山あります。

また、フイレンツェのキーサーパーなどのキッチン用品もお勧めです。

■神戸市中央区波止場町2-1
ホテルオークラ神戸
メザニアアーケード内
☎(078) 3931-2799
月曜休 9時半~18時半(平日)
9時~18時半(土・日・祝)



革見本を持ったチーフの平松さんと

去年の10月にオーブンしたばかりで、バッグ、レデイスニット、アクセサリーなどを中心に置かれています。特にこの春より、革のバッグのセミオーダーが出来ます。バッグ、財布などサンプルの中から好きな素材、色、そして裏地が選べます。個性を生かした自分だけのバッグを楽しめるのです。

■神戸市中央区東川崎町1-8-1
オーガスタプラザ2F
☎(078) 360-6057
11時~20時 水曜休

SPRING FASHION REPORT

■わたしのファッションレポート

ついつい長居してしまおう
私のとっておきのお店

佐本 加奈〈神戸ファッション専門学校3年〉
アパレルテクニカルコース

★宝石箱がひっくり返ったようなお店「オブジェ」

初めて入った時、一瞬にして魅了されてしまったこのお店。ハンター坂沿いにある外国人専用マンマヨンの2階にある。店内は薄暗く、不思議な空間で、ランプ、ソファ、食器などを始め、子供用の遊び道具、アクセサリー、時計など手にするものが全てが素敵なものばかり。「オブジェ」の商品はもはや輸入雑貨というより、目のつけどころが他とは違う気のきいたセンスのある物。私にとっては宝物三昧です。



輸入雑貨、手作りアクセサリーが一杯

■神戸市中央区北野町3-2-8 エベレスト1F
078(271)1414 10時~18時 無休

★MADE IN KOBEのメッセージ

「コウベバレットハウス」

私がまだ小さかった、異人館クラブオープン時から



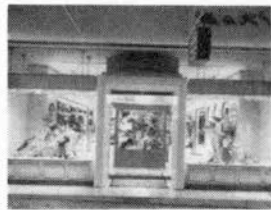
神戸らしいカバンがズラリ

立っていました。

■神戸市中央区北野町4-1-12
異人館倶楽部バレット1F
078(222)1855 10時~19時 第1・3火曜休

★帽子からはじまる神戸のスタイル「マキシン」

帽子の老舗「マキシン」は、店内に一歩足を踏み入れると気分が変わる。それは、デザインやマテリアルの



お店に入れば気分はプリンセス

のクオリティの高さから溢れる帽子の高級感で、友人とお喋りをしながらドアを開けても一瞬にして、口が止まってしまふ。2百点にもおよぶ帽子の数々、溜め息のそような、シックでエレガントなデザインが多

く、帽子を試着しているうちに、ふと自分も皇室の
の一人になった気分になり、大変な感違いをします。

■神戸市中央区北長狭通2-6-13
☎078(331)6711 10時~18時 日曜休

★暖かさをわけてもらいに…「シェ・マリー」

オーナーの赤堀さんとは、以前私がアルバイトして
いたコーヒーストップ「展覧会の絵」でお知り合いにな
り、手作りの素敵な傘入れを頂いた事があった。それ
は真白のレースがあしらってあり、とても洒落た物で



ハンドメイドの品々(左・上)

した。赤堀さんのお店「シ
ェ・マリー」は小物1つ1
つが手伝りで、洋服なども
フリルを作った物、刺繍を
してあるバック、皮製品な
ど暖かみのあるものばかり
です。オーダーメイドのパ
ックも作ってくれるそう。

■神戸市中央区山本通2-12-21
☎078(24)6754 11時~18時

★店内で2倍の楽しみがある「ソニアリキエル」

子供服と婦人服が一緒になっている北野店は、店内
も広く、子供服と婦人服が同時に見れるのがとてもい
い。私は、子供服「ENFANT」で小物を買う事が
多い。バッグにしても「ENFANT」の物は、大人が



春の香りが漂う店内

持っても十分かわいいもの
があり、つつい私は、子
供服のコーナーで長く見て
しまいます。北野店は、異
人館が立ち並ぶ所に一番近
いブティックで、ファッシ
ヨナブルな神戸を一層ひき
たてていると思えます。

■神戸市中央区北野町2-8-9 異人館倶楽部パートII
☎078(221)9600 11時~20時 第1・3火曜休



SPRING FASHION REPORT

③

■わたしのファッションレポート

楽しく優しいお店たち

内藤ひろみ

△(株)モモカンパニー代表取締役▽

★作る楽しさ、使う楽しさを味わえる

おしゃれなサロン「ビスクバレット」

素焼きに絵付をするビスクアートのお店です。常時100種類のデザインのスーパースタイルと200色の絵の具があります。度々、仕事で訪れる欧米で目にしていた、是非日本に紹介したいと思ったのが、オープンするきっかけでした。日本に普及させていきたいと思っています。自分で描いた器を毎日使えるなんて、なんて楽しいことでしょう。Let's join us!



素焼なサロンでビスクアートを

■神戸市中央区江戸町100 高砂ビル
301 電話 078-334-3285
(営)11時~19時 水曜15時~19時
木曜11時~20時30分 日曜定休

★イタリアからやって来た

「ラ・ボルチェラーナ・
ピアンカ」神戸店

イタリアで見つけて以来、ずっとファンだった白い食器専門店の「ピアンカ」が神戸にやってきました。良質で美しいフォルムやデザインの楽しさ。なにより



ディスプレイもお洒落な「ピアンカ」



温かく、可愛い食器たち

素晴らしいことは、定番商品が80%を占めるため、買い足しができることです。生活を楽しくするエッセンスのあるお店だと思います。

■神戸市中央区雲井通6-1-15
ブランドン神戸7F 電話 078-291-0077(代) (営)10時~19時
水曜不定休

★キャリア・ウーマンにやさしいお店

仕事着として愛用しているイタリア人デザイナーの「エンリカマッセイ」はシンプルでいて独特なデザインと微妙な色彩の美しさが特徴だと思います。きちんとした印象を与えることも



シンプルな中にも個性が光る服がズラリ...

こともできます。午後10時までのオープンなので、ゆったりとしたスペースでリラックスして服選びができる仕事をしている人には貴重なお店だと思います。



■神戸市中央区北野町1 新神戸オリエンタルパークアベニュー
電話 078-262-2531 (営)11時~22時 無休



「作る楽しさ、使う楽しさをお伝えしたい」と内藤さん



淡い色使いが優しい気持ちにしてくれる



★甘く、心地よい
「スピリチュアル ボンド フォー ウィミン」
ナチュラルで少し甘さのあるデザインに着ていて心地よい洋服です。優しい気持ちになれる服は、私にとって精神安定剤のようなものです。いつもお店の方に選ぶのが早すぎると言われるのですが、バック、くつ

アクセサリーも充実していて、全てにおいてコーディネートしやすくなっています。

■神戸市中央区三宮町1-9-1
126 ☎078-321-0050
(営)11時~20時 第3月曜休



古着やアクセサリが、所狭しと並ぶ店内

★古き良き時代を感じる小さなミュージアムのような
「ハーバーダッシュェリー」

突撃洋服店の元店長が独立して始めたお店です。アールデコの時代のソルト&ペッパーの器や、バック、帳子、アクセサリなど、小さなミュージアムにいるようで、時間のたつのを忘れてしまいます。古着はアメリカの60年代のものが多く、良質でリーズナブルです。懐しくて新しい感じのするお店です。

■神戸市中央区三宮町2-9-2
☎078-334-3143
(営)13時~21時 水曜定休



花の香りが溢れるアーティスティックなKベース

★アーティスティックなスペース「ル・ブーケ」
お花は大好きで、私の生活の中ではなくてはならないものです。ここのフラワードesignは、アーティスティックで私の創造力を刺激してくれます。花材もさることながら、花器も充実していて、お花の香りの中であれこれ選ぶのは楽しいものです。

■神戸市中央区明石町40 大丸神戸店南館1F ☎078-331-8121
(代) (営)10時~20時 水曜定休